

続・南半球一周クルージングレポート

山岸敏夫（11組）

南アメリカ最南端のウシュアイア（Ushuaia）に到着しました。旅の前半で訪れたかったマチュピチュ（Machu Picchu）とウシュアイアが叶いましたのでクルージングの続報を投稿します。

《アルゼンチンの世界の果て》

前回の投稿で上田高校同窓生との出会いを紹介したが、ほかの信州出身者も何人か顔なじみになった。諏訪清陵高校、長野西高校、上田染谷丘高校など。

夏祭りをはじめ、船内アクティビティが増加して、2月4日は65もコマがある。

参加したくても、時間が重なり諦めることもある中、優先して参加しているのは、『フランス語で歌おう〈愛の讃歌〉』は50人くらい、『第九を合唱で最後まで歌おう』は40人くらい。特に男性は8人のみで、このまま続けられるかどうか？

ダンス初心者コースは進むにつれステップが怪しくなってきた。

語学教室では初級ハングルとスペイン語を。

あと、各種講演や体験談披露の会などに出席すると、一日はあつという間だ。

航路はイースター島の後は、カヤオ（Callao／ペルー）、バルパライソ（Valparaiso／チリ）、そしてパタゴニアフィヨルドを通過し、マゼラン海峡に面したチリ最先端の街、プンタアレナス（Punta Arenas）、そして2月3日、アルゼンチンの世界の果て、ウシュアイアに。2月4日からは北上し、ブラジルのリオデジャネイロから南アフリカを目指し南太西洋を横断する。

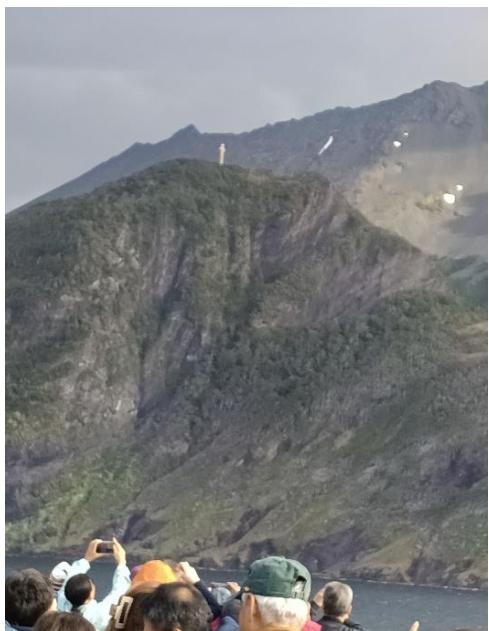
《寄港地ハイライト》

マチュピチュへの拠点であるカヤオからは船主催のツアーで、リマ（Lima）から標高3400mのクスコ（Cusco）まで往復飛行で一気に上り、着陸するので高山病が話題になる。我が20人グループでは一人が調子を崩した。

クスコからマチュピチュへの移動時に立ち寄ったウルバンバ近郊の遺跡は素晴らしかった。〔マラス塩田、モライ遺跡（インカの円形段々畑）〕

マチュピチュ遺跡にて





バルレパライソは丘ぎっしりとカラフルな家が立ち並び、街全体が世界遺産となっている。パタゴニア・フィヨルドの景観を楽しみ、南米大陸最南端の十字架のあるフロワード岬も遠望する。ウシュアイアは夏であるが気温が低く風が強い。「世界の果て」号という観光列車に乗ってティエラ・デル・フエゴ (Tierra del Fuego) 国立公園を訪れ自然を楽しんだ。

フロワード岬の十字架を遠望



船から南米最南端のウシュアイアを望む

《船仲間の不運な出来事》

転んで小川に落ちて怪我、カヤオで強盗に会う、サウナで転倒、ダンスや卓球でも転倒骨折、クスコで高山病がひどく日本に帰国、スマホをひったくられる（バルレパライソで）などなど、不運な事故はやはり起こりうる。

（2026年2月5日 記）

以上